



## 運用設計スキル 活用ガイド

### 本ダウンロードコンテンツについて

本ドキュメントは、ANDGATE METHODS「回せる運用の型——止まらない・無理がない・改善が続く・再現できる運用設計を基本設計フェーズで仕込む」の思想を、カバレッジマトリクス→SLA/SLO→シフト体制→ランブックインデックス→KPIループの5フェーズで完全再現するためのClaude専用スキルの活用ガイドです。

#### ■ 動作確認済み環境

本コンテンツは、以下の環境において正常な動作を確認しております。

- **OS**: macOS / Windows
- 推奨ツールおよびモデル:
  - **Claude Desktop**(一般利用者向け): Opus 4.6 / Sonnet 4.6
  - **Claude Code**(開発者・CLI利用者向け): Opus 4.6
  - **Claude Cowork**(チーム並行作業向け)
- 配布形式: ZIP形式

#### ■ ご利用の際の注意点

- **PC環境を推奨**: ZIPファイルの展開やプロンプトのコピー&ペースト操作が必要なため、**Windows**または**Mac**のPC環境での操作を強く推奨します。スマートフォン、タブレット、Chromebook等での動作確認は行っておりません。
- **他環境での動作**: 上記以外のOSや、旧バージョンのAIモデル、他社生成AI(ChatGPT等)では、設計通りの動作にならない、あるいは十分なパフォーマンスを発揮できない場合があります。
- **仕様変更**: AIモデルのアップデート等により、予告なく動作や出力結果が変化する場合があります。あらかじめご了承ください。

# 運用設計スキル

ANDGATE METHODS「CAPDで回す炎上プロジェクト」に基づき、基本設計フェーズで「回せる運用」を仕込むための運用設計書ドラフトを自動生成するClaude専用スキルです。

リリース直前に「これから誰がどう回すんだっけ」を始めないための型。止まらない・無理がない・改善が続く・人が変わっても再現できるの4要件を満たす運用設計書(4章構成)を、インプットをもとに自動生成します。

成果物	効果
運用設計書(4章構成)	SLA/SLO・ランブックIndex・シフト体制・KPIループをひとつにまとめたドラフト。 エグゼクティブサマリ・AI確信度・漏れチェックリスト・「次に決めるべきこと」リスト付き
運用カバレッジマトリクス	システム×サービス×環境×L0～L3で全網羅、「全マスから引き算する」設計で漏れを防ぐ。
サービス別SLO+通知ルート	最重要障害定義・下げ幅ルールをセットで定義、夜間対応を必要最小限に抑える。
シフト体制マトリクス	AIOps×運用ベンダー×自社責任者の組合せを時間帯別(平日昼・平日夜・休日)に設計
ランブックインデックス	観点10カテゴリで棚卸し、本体は構築フェーズ以降に作成。
KPI+月次レビュー運用	標準6KPI・目標値・測定頻度・改善フィードバック先を定義

## こんなときに使えます

- 基本設計フェーズで運用設計を後回しにしたくない
- コンサル指摘・非機能要件があるが、現場への落とし込みができない
- 運用ベンダーへの丸投げや夜間対応の属人化が不安
- AIOps導入を視野に入れて運用設計を組みたい
- 監査・SCS評価制度対応で「全部やる」を回避した計画が必要

## 想定しないユースケース

- 個別ランブック本体の作成 → 構築フェーズ以降で別ドキュメントとして作成します
- 監視ツールの具体的な設定 (Datadogダッシュボード等) → 監視設計書側の作業です
- 運用契約書・SLA契約書本体 → 法務・契約レビュー領域です
- AIOpsツールの選定 → アーキテクチャ判断が必要です
- コスト試算 → 別作業です

## 禁止事項

以下の情報は入力しないでください。

- 個人の連絡先 (メールアドレス・電話番号・Slack ID等)
- 認証情報 (パスワード・APIキー・IPアドレス・内部URL)
- 個別ベンダーの単価・契約金額
- NDA対象情報

通知先・体制はロール名 (例: 自社運用責任者) で記述してください。スキルは上記を検知した場合、処理を中断して匿名化を促します。

## ファイル構成

```
None
project-recovery/
  SKILL.md # スキル本体
  README.pdf # 本ファイル
  gotchas.md # ハマリどころ集
  templates/ # 各フェーズの出力テンプレート
    operation-design-document-template.md # 運用設計書テンプレート
    coverage-matrix-template.md # カバレッジマトリクステンプレート
    operation-design-excel-spec.md # Excel出力仕様
  references/ # 判断基準の参考資料
    coverage-levels.md # カバレッジレベル定義
    slo-catalog.md # SLO参考値カタログ
    escalation-patterns.md # エスカレーションパターン
    shift-patterns.md # シフト体制パターン
    runbook-master.md # ランブック観点マスタ
    kpi-catalog.md # KPIカタログ
    logic-comment.md # 設計思想
```

## 使い方1: Claude Desktop で使う(推奨)

Claude Desktop の「プロジェクト」機能を使ってスキルを登録します。

### Step 1: プロジェクトを作成する

1. Claude Desktop を開く
2. 左サイドバーの検索欄の下にある プロジェクト をクリック
3. 「新しいプロジェクトを作成」をクリック
4. プロジェクト名を入力(例: [運用設計スキル](#))

### Step 2: プロジェクトナレッジにファイルを追加する

プロジェクト画面の右側にある「プロジェクトナレッジにコンテンツを追加する」から、以下のファイルをアップロードします。

#	ファイル	説明
1	<a href="#">SKILL.md</a>	スキル本体。 Claudeへの指示が記述されています。
2	<a href="#">gotchas.md</a>	ハマりどころ集、スキルが内部で参照します。
3~5	<a href="#">templates/</a> 配下 (3ファイル)	各フェーズの出力テンプレート。 Claudeが生成した内容の清書用として使用します。
6~12	<a href="#">references/</a> 配下 (7ファイル)	カバレッジレベル・SLOカタログ・シフトパターン等の参考資料。 スキルが内部で参照します。

ポイント: [templates/](#) 配下のファイルは、Claudeが生成した成果物の「清書・共有用」テンプレートです。Claudeに「テンプレートの項目に合わせて出力して」と指示することで、内容をそのままコピー&ペーストして資料を完成させることができます。

### Step 3: カスタム指示を設定する(任意)

プロジェクト画面の「カスタム指示を設定」に、以下のように追記するとより効果的です。

None

あなたはプロジェクトナレッジに登録された「[運用設計スキル](#)」を活用して回答してください。  
運用設計に関する相談があった場合は、[SKILL.md](#) に記載された5フェーズのワークフローに従って支援を行ってください。

## Step 4: 使ってみる

プロジェクト内のチャットで自然言語で依頼するだけでOKです。

スキルを起動すると、最初に以下の情報を確認します。事前に整理しておくともスムーズです。

- インプット: 非機能要件定義書・システム構成図・業務フロー図等(なくても進行できます)
- 制約(3行で): 使える時間・動ける人数・持っている権限

None

# 例: スキルを起動する  
運用設計書を作って

# 例: カバレッジマトリクスから始める  
回せる運用を設計したい

# 例: SLA/SLOを整理する  
SLA/SLOとランブックIndexを整理したい

# 例: シフト体制を設計する  
シフト体制を設計したい

## フェーズ別の成果物レビュー

各フェーズで生成される主な成果物は以下のとおりです。

フェーズ	主な成果物
Phase 1 (カバレッジマトリクス)	運用カバレッジマトリクス → Checkpoint①
Phase 2-3 (SLO+シフト体制)	サービス別SLO・通知ルート・シフト体制マトリクス → Checkpoint②
Phase 4(ランブック)	ランブックインデックス(観点10カテゴリ)
Phase 5(KPI・出力)	KPI+月次レビュー運用 → 運用設計書(md or Excel)

補足: 2つのチェックポイントで承認が取れるまで次フェーズに進みません。Phase 1の段階で全サービスを最高レベルにするのではなく、業務影響から引き算するのがコアの考え方です。

## チェックポイント

- Checkpoint①(Phase 1完了後): カバレッジマトリクスのサービス軸・レベル設定を承認
- Checkpoint②(Phase 2-3完了後): SLO値・下げ幅ルール・シフト体制の現実性を承認

## 出力形式

- md形式(デフォルト): 4章構成の運用設計書を1ファイルで出力します
  - ファイル名形式: [クライアント名]\_運用設計書\_[PJ略称].md
- Excel形式(オプション): 主要成果物を6シート構成の .xlsx で出力します
  - ファイル名形式: [クライアント名]\_運用設計書\_[PJ略称].xlsx
  - シート構成: 表紙・サマリ／カバレッジマトリクス／SLA・SLO／シフト体制／ランブックIndex／KPI
  - 書式: ヘッダー青(#4472C4)・オートフィルター・列幅自動調整・優先度セル色分け

## 参考資料(references/)

ファイル	内容
coverage-levels.md	カバレッジレベル L0～L3 の定義と選定基準
slo-catalog.md	サービス種別別SLO参考値(可用性目標・RTO/RPO・一次対応SLO)
escalation-patterns.md	通知ルート4パターン(A～D)の定義と選定基準
shift-patterns.md	シフト体制4パターンと内製 vs 委託の判断軸
runbook-master.md	ランブック観点10カテゴリのマスタと共通テンプレート構成
kpi-catalog.md	標準6KPIおよびオプションKPIのカタログ
logic-comment.md	設計思想と Appendix A(内製 vs 委託判断フロー)

## 使い方2: Claude Cowork で使う

非エンジニアの方には、デスクトップアプリ「Claude Cowork」からのご利用を推奨します。スキルのインストールはGUI操作のみで完結します。

配布ZIPファイル(MO-003\_project-recovery.zip)をそのまま使用します。ZIPを展開する必要はありません。

### Step 1: スキルをアップロードする

1. Claude Cowork を開く
2. 右上の「Customize」をクリック
3. 「Skills」タブを選択
4. 「+」ボタンをクリックし、「Upload a skill」を選択
5. MO-003\_project-recovery.zip を選択してアップロード

### Step 2: 使ってみる

アップロード後はチャット画面から自然言語で話しかけるだけでOKです。操作方法は Claude Desktop と同様です。

None

```
# 例: スキルを起動する  
運用設計書を作って
```

## 使い方3: Claude Code (CLI版) で使う

開発者の方や、ターミナルから利用される場合は、以下のパスに配置してご利用ください。まずZIPを展開し、フォルダをコピーします。

None

```
cp -r project-recovery ~/.claude/skills/project-recovery
```

またはシンボリックリンクで登録する場合:

None

```
ln -s "$(pwd)/project-recovery" ~/.claude/skills/project-recovery
```

補足: Claude Code をお使いの場合  
スキルの起動はスラッシュコマンドまたは自然言語で行えます。

None

```
/project-recovery
```

または、以下のように自然言語で話しかけてください。

- 運用設計書を作って
- 回せる運用を設計したい
- SLA/SLOとランブックIndexを整理したい
- シフト体制を設計したい

## 免責事項

### 【重要】本スキルの動作環境および免責事項

本資料は、Anthropic社が提供するAIモデル「Claude」専用のスキルセットです。他社AI環境での動作は意図しておりません。

本資料は、スキルの動作を補助するものであり、生成される回答の正確性、完全性、または特定の目的への適合性を保証するものではありません。

### 免責事項

当社は、本コンテンツおよびそれを利用した成果物について、その完全性、正確性、有用性を保証しません。利用者は自己の責任において本コンテンツを利用するものとし、利用の結果、利用者または第三者に生じた不利益、不具合、損害（法的責任、データの損失、業務中断を含む）について、当社は理由の如何を問わず、また予見可能性の有無に関わらず一切の責任を負わないものとします。

---

Provided by **ANDGATE, Inc.**